

「しのはら公園子ども体験学習施設」について

1. 施設概要

- (1) 施設名 しのはら公園子ども体験学習施設
- (2) 所在地 山梨県甲斐市篠原1番地6
- (3) 建築面積 1,811㎡(子ども体験学習施設)
- (4) 延床面積 2,791㎡
- (5) 構造 鉄骨造2階建
- (6) オープン 令和9年3月予定
- (7) 施設構成スペース
 - ・遊戯体験スペース
 - ・体験学習室
 - ・子育てひろば
 - ・託児スペース
 - ・図書スペース



〔しのはら公園全体イメージ〕



2. しのはら公園事業の背景とコンセプト

(1) しのはら公園 事業背景

事業予定地は山梨県の施設であった山梨県緑化センター(以下、「緑化センター」という。)の跡地を含む約 2.5 ヘクタールの敷地です。県の環境緑化推進の中心的な役割を果たしてきた施設ですが、県内において都市公園等の施設整備が進み、より身近な地域で緑化に関する学習機会を提供できる環境が整ったことなどから、県は緑化センターを廃止する方針を打ち出しました。地域住民や関係団体から存続を要望する署名が県に提出されましたが、平成 26 年 3 月をもって施設は廃止されました。市では地域の要望等も考慮し、これまでの緑化センターの機能・役割を踏まえて、緑を生かした跡地の活用方法について検討の上、都市公園(地区公園)として整備する方針を決定しました。

〔廃止前の緑化センターの様子〕



(2) しのはら公園 事業コンセプト

市では、令和 2 年度に実施した活用アイデア募集や、令和 3 年度に整備基本計画策定に伴う市民ワークショップを開催するなど、市民参加による公園づくりに取り組む中で、事業コンセプトを「次世代へつなぐ創造の森」と決めました。

事業コンセプトは、子どもたちのあふれる好奇心を尊重し、関わる大人が子どもの「学び」を意識することを前提に、子どもたちが自然の中で五感を使って思い切り遊び、たくさんの人と関わることを通じて、社会性や創造力を高め、自己肯定感を養い、生きていくしなやかさを身につけていくことを目指すものです。さらに、障がいのある子ども達や子育ての悩みを抱える家庭をサポートする機能を持たせ、「誰一人取り残さない社会」へ向けて、子ども・親・地域など多様な市民が、公園での交流を通じた新たな表現の場、居場所となる「共生社会」の実現を図ります。

3. 子ども体験学習施設事業の背景とコンセプト

(1) 子ども体験学習施設 事業背景

平成30年12月に実施した「第2期子ども・子育て支援事業計画」策定のニーズ調査において、「室内で思い切り体を動かすことができる施設」、「気軽に子育て相談できる場所」、「気軽に子どもを短時間預けることができる場所」など、子育て支援に関するニーズが多く見受けられ、特に屋内型の遊び場への要望が高いことが明らかとなりました。

これらのニーズを満たすとともに、子どもたちの心身の健やかな成長に資するため、本施設の整備を進めることになりました。

(2) 子ども体験学習施設 事業コンセプト

これまでのサウンディング調査や子育て世代を対象に実施したアンケート調査結果などを踏まえ、コンセプトを次のとおり決めました。

①子育て支援の中心となる『子育て支援・子育て相談』施設

子どもの持つ無限の可能性を大切に、人と人とが関わりあいながら地域で子育て支援ができる施設、多様化する子育て支援のニーズに対応するため、専門員を配置し気軽に相談ができる施設となることを目指します。

②想像力をはぐくむ絵本の充実

読書のきっかけづくりのほか、想像力や考える力の向上、感性を養うことを目的とし、大人も子どもも楽しむことができるよう、図書コーナーを設置します。

③地域を繋ぐ多世代交流拠点・連携拠点

誰でも利用可能な都市公園内にある立地を生かし、子どもと子育て世代の親に限らず、地域における様々な主体（高齢者、子育て支援団体、自治会、学校、商店等）と連携し、子どもを中心とした多世代が交流できる拠点を目指します。

④県緑化センターの役割を継承した木育の推進

県緑化センターの役割を継承した木育ができる場として、木工教室や工作体験など、木の温もりを感じながら子どもの豊かな感性の発達を促し、豊かな心を育むことができるよう、体験学習室を設置します。

⑤市外からの交流人口を増やすにぎわいの創出

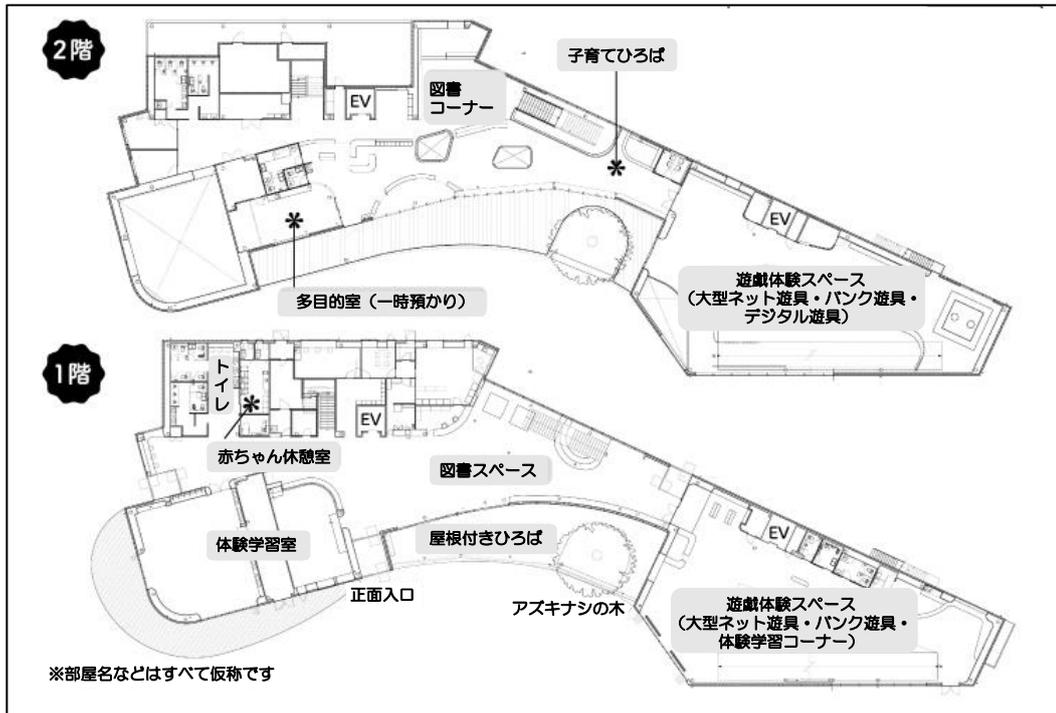
一年を通して屋内外で楽しむことができる遊具を設置するほか、絵本の充実、木育体験など、子どもたちが楽しめる魅力を効果的に発信することにより、市内だけでなく市外、県外からの誘客も可能にする観光の視点を取り入れたにぎわいの創出を図ります。

4. 子ども体験学習施設の特徴

(1) 施設全体について

本施設は、1・2階をつなぐ大型ネット遊具やバンク遊具、デジタル遊具などを備えた屋内遊戯スペースをはじめ、市内在住の乳幼児とその保護者を対象にした子育てひろば、一時預かりを実施するほか、自由に読書ができる図書スペースなどを備えます。

〔フロアマップ (イメージ)〕



〔施設外観① (イメージ)〕



〔施設外観②（イメージ）〕



〔施設外観③（イメージ）〕



(2) 各スペース等の特徴について

①子どもが思い切り遊べる屋内遊戯体験スペース

施設内に、1・2階をつなぐ大型ネット遊具、バンク遊具、子どもの好奇心を刺激して想像力を引き出すデジタル遊具などを備えた屋内遊戯体験スペースを整備します。雨の日でも思い切り体を動かして遊ぶことができるこの施設は、天候に左右されない安全な遊び場として、子どもたちにとって魅力的な空間となります。

公園全体のメインスペースとして、地域のにぎわい創出にも寄与します。

〔大型ネット遊具イメージ（1階-2階）〕



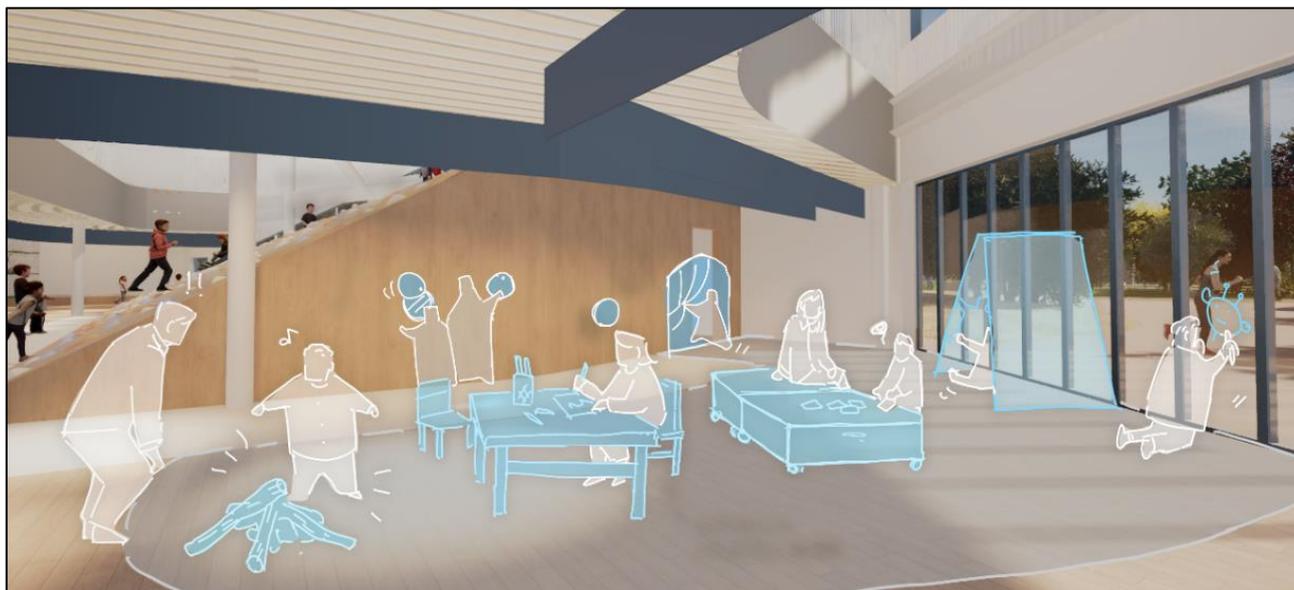
〔バンク遊具イメージ（1階）〕



② 県緑化センター機能の継承と自然体験

屋内遊戯体験スペース横に、さまざまな遊びや学びができる体験学習コーナーを設けます。また、木工体験など自然とのふれあいを通じた活動ができる体験学習室も設け、県緑化センターの跡地という特性を生かし、環境教育や自然体験の場としての機能も担います。

〔体験学習コーナーイメージ（1階）〕



③ 子育て支援と地域交流の拠点

一時預かりや子育てひろば、図書スペース、子育て相談など、子育て家庭を包括的に支援する機能を備えます。子育て中の親子が気軽に立ち寄り、悩みや不安を相談できる場とすることで、地域における切れ目のない子育て支援体制の充実を図ります。また、子育てに関するボランティア団体などの育成や活動支援に取り組むとともに、市民と協働したイベント開催など、地域ぐるみの子育て環境づくりを推進します。

〔図書スペースイメージ（1階）〕



④誰もが使えるインクルーシブ遊具

年齢、障がいの有無、国籍などにかかわらず、すべての人が安心して利用できる公園を目指し、インクルーシブ（あらゆる人を受け入れる）遊具を導入します。誰一人取り残さない社会の実現に向けて、多様な人が共に過ごし、楽しめる空間づくりを進めます。

⑤脱炭素化推進による環境配慮

ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）認証を取得した設計により、エネルギー効率の高い機器や断熱性能を取り入れます。さらに、樹木によるCO₂吸収や自然との共生を意識した植栽計画を通じて、脱炭素化と環境負荷低減に取り組みます。

⑥スマート技術の活用

一部園内にはWi-Fiを整備し、子どもの学習や保護者のコワーキング利用など、利便性の向上を図ります。また、デジタル遊具を導入することで、テクノロジーを活用した新しい遊びのスタイルを取り入れ、多様な来園者の体験価値を高めます。

